

SHIRAKOBATO

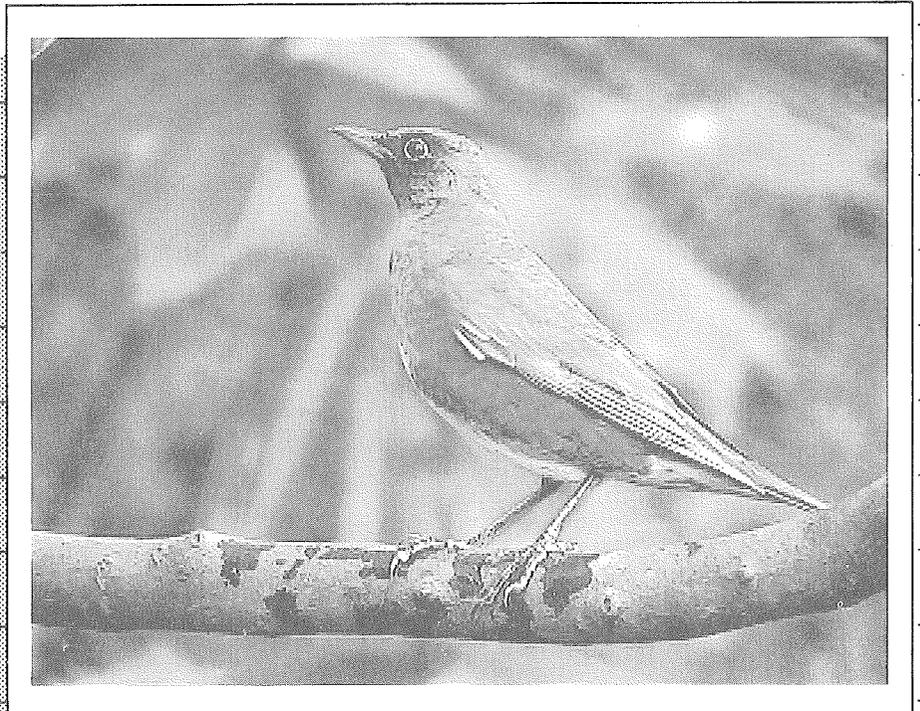
しらこぼと



1997. 2

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 154

日本野鳥の会 埼玉県支部

今年こそ探鳥会!!

今回の特集は、昨年11月号の地鳴きコーナーに掲載されました山本義和さんの「探鳥会デビュー」が呼び水となっています。これを読んで同感しきりの、そして今ではバリバリのリーダー2人が、自分の体験を語ってくれました。5ページの「私が初心者だった頃」がそれです。まずはそちらから読んでください。きっと、「あ!自分と同じだ」と思い当たるところがあるはずですよ。

さあ、今年こそ、探鳥会にデビューしましょう。

1 集合場です

集合場所では、「日本野鳥の会 埼玉県支部」の青い腕章をし、旗を持った担当者(当日のリーダー)があなたを待っています(写真①)。遠慮なく声を掛けてください。その時、初心者であることを伝えていただくとサポートできるめやすが分かり、リーダーも助かります。探鳥会によっては、初心者がより安心して参加できるように、初心者リボンをつけていただき、その方たちには、重点的にお世話をしています。つまり、鳥をみるチャンスになるべく多く提供しようと努力しています。ですから、とかく必需品と思われがちな双眼鏡さえ持っていなくとも大丈夫です。

2 始まる前に

受付をします(写真②)。参加費として一般100円、会員と中学生以下は50円を収め、氏名と住所を用紙に記入します。この参加費は掛け捨ての傷害保険と資料代などです。氏名と住所を記入したときから探鳥会が終るまで保険の対象となります。受付用紙には職業欄はありません。参加費をそれ以上収めていただくのは寄付として大歓迎です。

さて、いよいよ出発です。はやる気持を押



(写真①)



(写真②)

さえ、リーダーの話に耳を傾けてください(写真③)。話の内容は、今日の見どころや注意事項です。

3 始まりました

リーダーを先頭に、長くても2kmほどの道のりを2時間以上かけて歩きます。リーダーはどの探鳥会でも数人はいますが、とにかく初心者はリーダーの半径3m以内にいるようにしましょう。

そして、例えばリーダーの「望遠鏡にウソが入っていますよ(「見ることができる」の意、「ウソ」というのは鳥の名前です)」の聲が聞こえたら、真っ先に見せてもらいましょう。遠慮することはありません。リーダーは、望遠鏡を自分が見るために持っているのではなく、参加者に鳥を見ってもらうために持っているのですから(写真④)。

なおこの時、同じ鳥を何度見ても、名前と姿がなかなか一致しません。何度見せてもらっても構いません。そのたびに忘れても気にすることはありません。

また、「あれはウソの♂です」の説明を受けたときは、♂と♀はどこで見分けるのかなど分からないことはどんどん質問しましょ



(写真③)

う。同じ質問をすることは気が引けるのでしたら別のリーダーにたずねればよいのです。

リーダーの服装や持ち物も参考になります。アウトドア雑誌に載っているような服装は必要なく、手持ちのもので十分間に合うことが分かります。リュックを背負っているのも、両手が自由になるからです。喫煙するリーダーは、携帯用の灰皿持参であることも気が付きます。

4 鳥合わせ

最後にその日に出た鳥を全員で確認します。これを「鳥合わせ」と言います(写真⑤)。2人以上のだれかが確認できれば、その鳥はその探鳥会の出現鳥として記録されます。

多い季節で40種程が記録されます。しかし、初心者が見て覚えられるのは片手で数えられるほどの場合が多いようです。がっかりする必要はありません。リーダーでも確認できたのは出現数の半分程度でしょう。初心者は「あのカモの緑色が綺麗だったなあ」などの自分だけの印象を大事にしたほうが良いと思います。次回見たときに、「あ、いつかの



(写真④)



(写真⑤)

カモだ」と思い出せば、それだけで幸せになれるます。

5 終わってから

鳥合わせが終ると探鳥会も終わりです。だいたい正午前です。帰る方も多いのですが、私は弁当を持参し、大空の下で食事をするのが好きです。そして、探鳥会で一番印象に残った鳥をもう一度、今度は自分でさがしてみると楽しさは倍になります。

なお定例の探鳥会では、鳥合わせ終了後、図鑑や小物類の販売をしている場合が多く、楽しみの一つにもなっています(写真⑥)。

最後に、埼玉県支部は役員・リーダー全てボランティアであり、販売物の売り上げも支部の活動源となるだけで、個人には還元されないことを申し添えておきます。(山部直喜)



(写真⑥)

野鳥記録委員会最新情報

日本野鳥の会埼玉県支部 野鳥記録委員会

■オオキアシシギの記録

和名 オオキアシシギ

目科 チドリ目シギ科

学名 *Tringa melanoleuca*

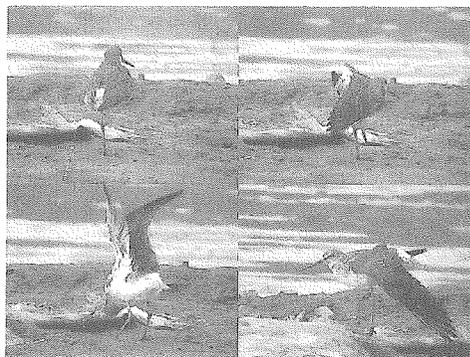
英名 Greater Yellowlegs

1996年11月3日(日)午前中、戸田市曲谷地内の荒川第一調整池(通称:道満の彩湖)の干上がった水底に降りているオオキアシシギ1羽を、有山智樹会員が発見し、同日夕方と翌4日(月・休日)に、海老原美夫・記録委員会委員が合計1時間30分間くらいビデオ撮影(右上写真)した。

浅い水の中を忙しく歩き回ってエビなどを捕食していた。知らずに近寄る人や子供達が遊ぶ爆竹の音に驚いて飛ぶ様子も見られた。

知らせを受けて駆けつけた多くの人に観察されたが、11月6日(水)午後4時ごろが終認となった。同日夜強い北風が吹いたのが、移動の原因と思われる。

ビデオ映像を見た小林みどり委員長と石井智、杉本秀樹両委員も、体型、くちばしや足の様子、腰が白いがその白が背のほうに食い込んでいないこと、ピョーピョーピョーと3



声から6声連続して鳴くことなど多くの特徴から、オオキアシシギとして記録することに決した。肩羽、雨覆の特徴から、若鳥と思われる。

オオキアシシギは北米北部やアラスカで繁殖し、中米や南米で越冬する。アメリカ大陸を南北に移動する鳥なので、日本で観察されることは稀。本部研究センターの記録では、この時までの日本での確実な記録は1964年8月宮城県の場合が唯一のもので、埼玉県ではまったく最初の記録。当委員会作成の県内鳥類リスト掲載297番目の鳥となる。

地鳴きコーナー

近視・乱視・老眼・遠視の話

陶山順子(浦和市)

超ビギナーから、やっと「超」がとれた私、この頃つくづく感じることもある。

私は、近視プラス乱視に、老眼が加わり、眼鏡をかければ疲れるし、かけなければ、遠いものは「超」見えにくい。(なぜか、小さい字は、裸眼でも0.5ミリくらいのも読めるという変な目)。

こんな私が、主人の尻尾について、バードウォッチングに行く。ちなみに、主人は遠視プラス老眼である。

日本の鳥は、小型で、色も地味なものが多い。木の枝や枯れ草の間にいると、目立たないこと、おびたがしい。

必ずとっていいほど主人が先に見つけ、「あそこ、あそこ!」「どこ、どこ?」「あの太い枝の右の……あっ、飛んじゃった」という会話ばかり。双眼鏡のピント合わせをしているうちに、飛び立ってしまう。

スコープに入っているのを見るのが一番確実だから、私は水鳥が良い。体が大きいし、ほとんどがゆっくりしてしてくれる。カモ類などは、「さあ、ごらんください」とばかりに胸を張ってゆうゆうと泳ぐ。

バードウォッチャーは、断然遠視の人の方が得。何種類も多く見つけられる。

探鳥会の鳥合せのたびに、目のせいにして「そんなに見なかったもんね」と内心つぶやく私である。

初めての探鳥会

私が初心者だった頃

'89年に入会したのですが、初めて探鳥会に出たのは1年半くらいたってからです。それまでは野鳥の会の通販で買った双眼鏡で近所の鳥を見ていました。

参加したのは秋の入間川探鳥会でした。そこは土地勘があったことと、自分が知っている駅が集合場所だったので行ってみようと思ったのです。でも鳥のことはほとんど知らなくて、それでもいいのかなとすごく不安でした。その時までカワラヒワさえ知りませんでしたから。分かるのはスズメ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリの4種類だけでした。

性格があまり社交的ではない方なので、参加してもつらかったらすぐに帰ろうと思っていました。それでお弁当は持っていかなかったんです。探鳥会がお昼で終わりというのは楽でよかったです。

その時の服装も覚えています。白のポロシャツ、ベージュのセーターにジーンズでした。靴はスニーカーで、トレッキングシューズなんて知りませんでした。

一番の不安はトイレのことでした。駅に着いて他の女性の参加者に思いきって尋ねたら「お昼までありませんから、駅で済ませておいた方がいいです。私も一緒に行きます」といってくれてすごく安心しました。それが中村祐子さんでした。彼女も探鳥会は2回目くらいだったそうで、それ以来ずっと仲良しです。同じような境遇の人がいるのはいいですね。その次からはうんと気楽に参加できるようになりました。

(山本真貴子 飯能市)

最初は人の世話にならなくても、ひとりで100種類の鳥を見てやろうと生意気なことを考えていました。雪の奥多摩湖に出かけて65種までがんばったのですが、とうとう頭打ちになり、どこへ行けばいいのかわからなくなって探鳥会に参加することにしたのです。

初めて行った行徳の探鳥会では1日で12種も増えたので、先達のありがたみを感じました。それとリーダーの人が、親切だったのが

意外でした。もっと偉そうにしているのかと思っていたからです。空に浮かんでピーチクさえずっている鳥を「あれは？」と尋ねると「ヒバリです」とていねいに答えてくれました。

すごく驚いたのは、こんな汚い所、と思うような場所にたくさんの鳥がいたことです。バードウォッチングは美しい自然の中でやるものと思っていたのに、その先入観を見事に覆されました。教わらなければわからないこともいっぱいあるんだと痛感しました。ただ、他の参加者があいさつ代りに、当時話題になっていたコウライアイサを「見て来た」と話しているのを横で聞いていて、鳥キチというはどこか人の道を踏み外しているな、と不安になりましたけど……。

しかし皆さんが鳥に限らず動物、植物に興味を持って熱心に観察しているのにはすごく共感を覚えました。鳥と環境の両方を見ることがポイントだということとその頃から、知らず知らずのうちに覚えさせてもらったような気がします。

当時の僕はメモ魔をやっていて、鳥はおろか、リーダーがどんなことを喋ったかまでメモしていて煙たがられたこともあります。しかし2回目に行った谷津干潟の探鳥会では感想文を書かされ、活字になった自分の文章を見て全身の毛穴が開くような思いをしました。おもしろいものですね。

(杉本秀樹・杉並区)



白馬探鳥会に参加して

羽入田京子（本庄市）

心配された天気も晴天にめぐまれ、車窓の眺めは、ゆく程に紅葉のまっ盛り。色どり美しい山々に見とれながら一路白馬へ。

最初の唐花見温泉では、ベニマシコ、アトリの小群、マミチャジナイとツグミの混群。もう少しゆっくり見ていたいと思うも時間切れで先を急ぎ、次の鷹狩山では、後立山連邦の眺望を楽しみ、珍しい「木の葉蝶」を見るオマケもありました。

塩の道を青木湖を経てペンション「2歩目の一步」に到着。夜は温泉やビデオともりだくさんの一日でした。

翌朝、夜明前にモルゲンロートを期待して出発。朝霧の中、もやの晴れるのを待ちましたが、探鳥もままならず、やむなく浅間山へ登ることに。

カラ類、メジロ等を見ながら一時間程歩いた時、突然霧が晴れ、金色に輝く白馬三山が雲海の上に帯のように現れました。息をのむ美しさにしばし感激。

朝食後は上部林道で雄のルリビタキをばっちり見、幸運。見られなかった残念組（ちなみに夫）もありました。

「一步」の辺りでは、ヤマガラ、コガラ、アオジ、カシラダカ、ノスリ、帰路の青木湖ではカンムリカイツブリ等。

とにかく、夫婦で参加しても、「見た」「見なかった」等と結果はいつも別々です。それが又、次への期待になるのですが。

撮影とびあるき

佐藤 進（大宮市）

11月。茨城県の浮島でコチョウゲンボウの昼寝場所を発見し、撮影に通いました。オスとメスとでは、場所も違います。どうやらメスの数の方が多いようです。

浦和市内では、新聞記事にもなったキツネの撮影に成功しました。

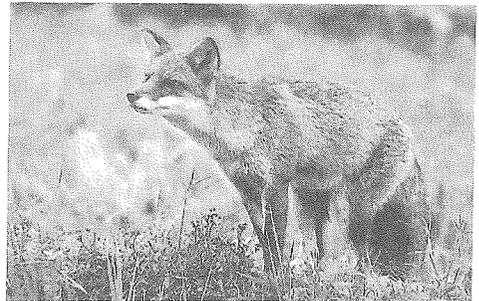
このキツネは、数年前からいると言われているのですが、朝、昼のねぐらに帰るため、獣道を時々通ります。いつもは暗いうちに通るのですが、この日は猟犬4頭を日の出前か



（コチョウゲンボウ）

ら放して訓練をしている人がいたので、この場所を通れず、遠くの藪の前で様子を見ている姿が時々見られました。

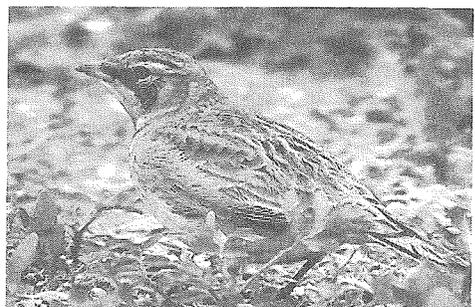
犬がいなくなって30分過ぎ、まわりも明るくなって、もうキツネはどこかに行ってしまったかとあきらめていると、いつもの獣道をトボトボと帰ってきて、明るいところで撮影できました。



（キツネ）

12月。神奈川の友人・黒川さんから、静岡県浜松市内にハマヒバリが1羽いるとの情報もらい、早速出かけました。飲まず食わずで車を飛ばして5時間半、ようやくたどり着いた時には、残念ながらさっきまでいたのと言われました。

ホテルに一泊して、翌日の午後、風雨の中で、車内から撮影できました。



（ハマヒバリ）

鳥の観察

- ハジロカイツブリ ◇11月11日、戸田市の戸田橋付近の荒川で1羽（高橋達也）。◇11月17日、蓮田市の黒浜沼上沼で1羽（玉井正晴）。
- カンムリカイツブリ ◇11月3日、北川辺町の渡良瀬遊水地で6羽。17日には、同地で約20羽（樋口信之）。
- マガン ◇12月12日、戸田市道満の彩湖で1羽。着水していたが、落ち着かないようで、数分後に飛び立ってしまった（高橋達也）。（11月24日にもビデオ撮影されています）
- ハクチョウs.p ◇11月17日、北川辺町の渡良瀬遊水地で4羽。飛び立ったところだったので顔の確認ができなかった（樋口信之）。
- ヨシガモ ◇11月3日、北川辺町の渡良瀬遊水地で♂3羽（樋口信之）。◇12月4日、滑川町の森林公園の山田大沼で♂1羽（中村豊己）。
- オカヨシガモ ◇12月4日、滑川町の森林公園の山田大沼で♂2羽（中村豊己）。
- スズガモ ◇11月3日、北川辺町の渡良瀬遊水地で♂4羽♀7羽（樋口信之）。
- ミコアイサ ◇11月17日、北川辺町の渡良瀬遊水地で♀4羽以上（樋口信之）。◇11月21日、川越市の伊佐沼で7羽。潜水を繰り返していた（上野恵美子）。◇12月4日、



マガン（11月24日、彩湖にて 海老原美夫）

- 滑川町の森林公園の山田大沼で♀1羽（中村豊己）。
- ウミアイサ ◇11月15日、戸田市道満の彩湖で♀1羽（高橋達也）。
- カワアイサ ◇11月17日、北川辺町の渡良瀬遊水地で、♀1羽（樋口信之）。
- トビ ◇11月17日、大宮市櫛引町で1羽。上空を一直線に南南東へ飛ぶ（渡辺朝一）。
- オオタカ ◇11月3日、北川辺町の渡良瀬遊水地で若鳥1羽。17日には、同地で成鳥1羽（樋口信之）。◇11月24日、蓮田市江ヶ崎の雑木林上空で1羽。カラス3羽にモビングされる（玉井正晴）。
- ノスリ ◇11月3日、北川辺町の渡良瀬遊水地で1羽。17日には、5羽以上（樋口信之）。
- コチョウゲンボウ ◇11月3日、北川辺町の渡良瀬遊水地で4羽以上（樋口信之）。
- クイナ ◇11月23日、浦和市の芝川にかかる第2産業道路の橋の上流で1羽。他にバン5羽（箕輪眞澄）。
- タゲリ ◇11月8日、戸田市の戸田橋付近上空を8羽通過（高橋達也）。◇11月17日、北川辺町の渡良瀬遊水地で6羽（樋口信之）。
- セグロカモメ ◇11月17日、北川辺町の渡良瀬遊水地で1羽（樋口信之）。
- コミミズク ◇11月3日、北川辺町の渡良瀬遊水地で1羽（樋口信之）。
- アマツバメ ◇11月17日、北川辺町の渡良瀬遊水地で10羽以上（樋口信之）。
- アカゲラ ◇11月17日、北川辺町の渡良瀬遊水地で1羽（樋口信之）。◇11月20日、東松山市大谷の自宅付近の休耕田で♀1羽。セイタカアワダチソウの枯れた茎をついていた（中村豊己）。◇12月8日、大宮市の大和田緑地公園内の雑木林で♀1羽。犬に引かれて林の縁を歩いていると、ここでは聞いた事のない「キョキョ」という声。もしやと思って、林の中を覗いてみるとアカゲラでした（浅見徹）。
- アオゲラ ◇10月30日、滑川町の森林公園北展望所付近で1羽（中村豊己）。◇11月17日、蓮田市黒浜の東埼玉病院の林で♂1羽（玉井正晴）。◇12月8日、大宮市の大和田緑地公園内の雑木林で♀1羽（浅見徹）。

カヤクグリ ◇12月14日、深谷市の仙元山で1羽(新井巖)。

ルリビタキ ◇11月23日、深谷市の仙元山で♀1羽(新井巖)。◇12月8日、坂戸市城山で♀1羽(黒木昭雄、増尾隆)。

シロハラ ◇11月4日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽(高橋達也)。◇11月20日、大宮市日進町1丁目です1羽(森本國夫)。

ツグミ ◇11月11日、大宮市日進町1丁目です1羽。今期初認(森本國夫)。

キクイタダキ ◇11月12日~12月3日、大宮市西新井の森で1~10羽(浅見徹)。◇11月23日、深谷市の仙元山で5羽以上(新井巖)。

エナガ ◇11月17日、深谷市の仙元山で群れ(村岡浩・敬子)。◇11月20日、大宮市西新井の森で3羽以上。コゲラ、シジュウカラ、メジロの混群の中にいました。この日以降姿も声も確認されていないので通過していっただけのようです(浅見徹)。◇12月12日、寄居町の鉢形山で6羽。メジロ、シジュウカラと混群(藤原寛治)。◇12月13日、寄居町折原で10羽以上(藤原寛治)。

ヒガラ ◇11月24日、蓮田市黒浜の東埼玉病院の林でメジロ、シジュウカラ、ヤマガラと混群をつくって移動して来た(玉井正晴)。

ヤマガラ ◇11月17日、坂戸市西坂戸の雑木林で1羽。枝上でシジュウカラが脚で押さえていた虫を横取りした(増尾隆)。◇12月12日、寄居町の鉢形山で1羽(藤原寛治)。

アオジ ◇11月5日、大宮市日進町1丁目です1羽。今期初認(森本國夫)。

クロジ ◇11月18日、大宮市日進町1丁目です1羽。ここでは、何年ぶりかです(森本



「150回目の三室探鳥会で
ミニ手鞠をいただきました」

國夫)。

マヒワ ◇12月4日、大宮市西新井の森で約30羽。5日には、100羽以上。5日は特に多く、前後左右マヒワに囲まれて、感動ものでした(浅見徹)。

ベニマシコ ◇11月17日、北川辺町の渡良瀬遊水地で♂1羽(樋口信之)。

ウソ ◇11月24日、蓮田市江ヶ崎の雑木林で♂2羽♀1羽(玉井正晴)。◇12月4日、滑川町の森林公園梅林で♂2羽(中村豊己)。◇12月7日、坂戸市城山の桜並木で♂2羽。例年姿を見せるのは3月上旬なので今シーズンはずいぶん早い。まだ小さく固い桜の花芽をついばんでいた(増尾隆)。

イカル ◇12月13日、寄居町折原で、一声さえずりを聞く(藤原寛治)。

シメ ◇11月11日、大宮市日進町1丁目です1羽。今期初認(森本國夫)。

カケス ◇12月8日、大宮市の大和田緑地公園内の雑木林で2~3羽(浅見徹)。

表紙の写真

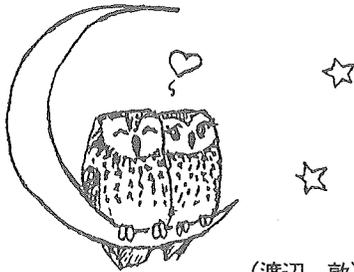
アカハラ(ヒタキ科ツグミ亜科)

時々海外にも足を伸ばすし、珍鳥情報で出歩くのも、遠くでなければ嫌いではない。

しかし、自宅近くの通い慣れたフィールドは格別だ。日曜日の朝、特に早起きもしないで、いつもの出勤時間に、昼食と飲み物を持

ち、出勤とは違う方向に自転車のペダルを踏む。いつものポイントであくびをしながらのんびり座る。そんないい加減なバードウォッチングでも、アカハラたちはポーズをとってくれるから。 蟹瀬武男(浦和市)

行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

大宮市・花の丘探鳥会

期日：2月1日(土)

集合：午前9時20分 花の丘駐車場

交通：JR高崎線宮原駅西口より東武バス大宮花の丘行き9:00発に乗車、終点下車。

担当：桜庭、松井、中村(栄)、浅見(健)、浅見(徹)、飯塚、高

見どころ：公園周辺の森を歩きます。冬の小鳥たち、シメ、カシラダカ、アオジに加えて赤い小鳥(今年は当たり年?)にもあえるかも知れません。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗場、大崎園芸植物園行14:10発に乗車、念仏橋下車。

後援：浦和市くらしの博物館民家園

解散：午後5時頃

担当：手塚、伊藤、工藤、新堂、笠原、吉岡、若林、倉林

見どころ：5時から何とかにピッタリの貴方向けの探鳥会です。夕日をバックに見沼たんぼを歩き、コミミズクに今年こそ会ってみたい!

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月2日(日)

集合：午前8時30分 北本自然観察公園駐車場、または8時15分JR高崎線北本駅改札口。集合後タクシーで現地へ。リーダーの指示で分乗してください。

担当：岡安、内藤、榎本、立岩、永野(安)、永野(京)、川那部、島田、高、大坂

見どころ：春を待つ木立の中に、アシ原に、小鳥達を求めて歩きます。今冬はアトリの仲間の当たり年。身近な処に赤い鳥がいるかも。石戸宿再発見の探鳥会です。

長野県・軽井沢探鳥会

期日：2月2日(日)

集合：午前9時10分 信越本線中軽井沢駅前
交通：特急「あさま1号」大宮7:22→高崎8:10→中軽井沢9:02着

解散：午後1時30分頃

担当：町田、小池、佐久間

見どころ：ヒレンジャク、ベニマシコ、ウソなどを求めて散策します。鳥も多いけれど、雪も多いとのこと。足ごしらえ、寒さ対策は充分に!

大宮市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月8日(土)

集合：午前8時10分 JR宇都宮線土呂駅東口、または午前8時30分市民の森入り口前(土呂駅東口より徒歩5分)。

担当：工藤、桜庭、中村(栄)、藤原(寛)、浅見(徹)、森、松永

見どころ：身近な自然の中で冬の小鳥達の姿

浦和市・民家園周辺定例探鳥会

(差間コース)

期日：2月2日(日)

集合：午後2時45分 浦和市くらしの博物館民家園

をじっくりと観察。これも自然保護にとって大事なこと。そんな中で上空にオオタカが舞うことを期待して歩きませんか。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月9日（日）
集合：午前9時15分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車、大麻生下車。
担当：和田、森本、小池、榎本、町田、岡安、中島（章）、石井（博）、倉崎、松本
見どころ：探鳥コースがいくつもあり、コハクチョウや小鳥達が多い冬は選ぶのに迷います。下見の結果で決めますので、何が出るかお楽しみに。

大宮市・深作川遊水池探鳥会

期日：2月9日（日）
集合：午前8時45分 JR宇都宮線東大宮駅東口。集合後9:02発バスで現地へ。または9時45分アーバンみらいバス折返場。
担当：中島（康）、吉安、中村（栄）、玉井、浅見（徹）、松永
見どころ：遊水池のカモ達、アシ原にオオジュリン、たんぼにタゲリの群れ…身近なところにも鳥達はいますよ！

富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：2月9日（日）
集合：午前9時 東武東上線柳瀬川駅前
担当：高草木、佐久間、石井（幸）、中村（治）、神場、志村、中村（祐）、下川、村上、遠藤
見どころ：カモ類は集合し、採餌に夢中か集団見合の真最中。チョウゲンボウは空に、タゲリの集団も田から空に舞う。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：2月11日（火・祝）
集合：午前9時10分 西武線西武球場前駅前
交通：西武狭山線西所沢8:59発に乗車
担当：杉本、長谷部、石井（幸）、小野、中

村（祐）、山本、久保田

見どころ：人にとっては極寒の2月でも、鳥の世界はそろそろ春。夏羽のカムリカイツブリ、コガモの求愛行動も見ものです。晴天ならオオタカが空に舞いますよ。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月11日（火・祝）
集合：午前7時30分 丸山公園北口駐車場
交通：JR高崎線上尾駅西口5番バス乗り場より西上尾車庫（畔吉経由）行7:07発に乗って「前原」下車、徒歩約10分。
解散：午前11時頃
担当：岡安、阿久沢、浅見（健）、永野（安）、永野（京）、浅見（徹）、大坂、高
見どころ：キリッと身も引き締まる、御存じ早起き探鳥会。お目当ては景観池のカワセミとアシ原のオオジュリンです。変化にとんだコースなので、何が出現するか、リーダーも楽しみです。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月13日（木）
集合：午前8時50分 JR高崎線本庄駅北口
交通：集合後、十王バス9:05発新伊勢崎行で「坂東大橋南詰」下車。現地集合可。
担当：桜庭、松井、中村（栄）、中島（章）、堀
見どころ：平日探鳥会の本年第1弾！ 河面の風は冷たいからなんて言わないで、河原を歩きましょう。猛禽類や、カモ類が元氣な貴方を待っていますよ。

群馬県・真妙養探鳥会

期日：2月15日（土）
集合：午前9時20分 JR信越本線横川駅前
交通：特急「あさま73号」大宮7:52→高崎8:44→横川、または大宮6:56→熊谷7:38→高崎乗継ぎ→横川9:17着
解散：午後2時頃 現地にて
担当：松井、中島（康）、小林（み）、桜庭、新堂
見どころ：今回もイヌワシが必ず出てくれる事を信じて、約5kmの道を登ります。

防寒と足拵えはしっかりと。

滑川町 武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月16日（日）

集合：午前9時40分 森林公園南口入り口前

交通：東武東上線森林公園駅より、森林公園南口行き9:17発バスで終点下車。

費用：入園料390円（子供80円）

担当：内藤、岡安、佐久間、藤掛、青山、島田

見どころ：2月は鳥種が最も多く見られる時期で楽しみです。鳥で楽しんだ後は紅梅白梅の下でお弁当をあげましょう。約束は出来ませんが名物甘酒のおまけもあるはずですよ。

深谷市 仙元山公園探鳥会

期日：2月16日（日）

集合：午前9時 JR高崎線深谷駅南口ロータリー

担当：小池、小淵、小野沢、中島（章）、倉崎、堀、松本

見どころ：瀧宮神社から唐沢川経由で仙元山までのんびりと歩きます。カワセミ、キセキレイ、アオゲラ、ルリビタキ、ビンズイ、キクイタダキ等が結構楽しめますよ。

浦和市 三空地区定例探鳥会

期日：2月16日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時 浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館。

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺（周）、笠原、倉林、若林、岡部、嶋田、森

見どころ：寒い盛り、遠くに連なる秩父の山も身近に見えます。足元の草花に春の兆しを感じながら歩きましょう。自然と鳥と人の調和を大切にしたいものです。

「しらこぼと」袋つめの会

とき：2月22日（土）午後1時～2時ころ

会場：支部事務局108号室

茨城県 菅沼探鳥会

期日：2月23日（日）

集合：午前8時45分 東武伊勢崎線北越谷駅東口。集合後、9時発バスにて現地へ。または、10時に茨城県立自然博物館駐車場。

解散：午後2時ころ（昼食持参のこと）

費用：入園料200円

担当：中島（康）、吉安、中村（栄）、篠原（東）、入山、橋口

見どころ：何年ぶりの開催です。この間に博物館が出来て沼の周辺の自然は大きく変わってしまったのではないかと思っています。お目当ては200羽以上のコハクチョウと、沼のカモ達を狙うワシ・タカです。

寄居町 玉淀河原探鳥会

期日：2月23日（日）

集合：午前9時10分 秩父鉄道寄居駅南口

交通：秩父鉄道熊谷8:23発、または東武東上線川越7:55発小川町乗継ぎ、寄居下車。

担当：小池、田口、町田、林（滋）、小淵、中島（章）、井上、松本

見どころ：キラッと光る冬の河原で、カワセミ、ヤマセミを。鉢形城址ではアオゲラ、ルリビタキ、キクイタダキなどを探します。河原を歩きます。防寒と足拵えは十分に。

東松山市 物見山探鳥会

期日：2月23日（日）

集合：午前9時30分 物見山駐車場

交通：東武東上線高坂駅西口より、東武バス鳩山ニュータウン行き8:56、9:12発で「大東文化大学前」下車、バス進行方向へ徒歩約5分。

担当：榎本、岡安、内藤、藤掛、立岩、志村

見どころ：東松山市民の森、岩殿観音、物見山を巡るいつも好評の探鳥会です。静まり返った林の中の、小鳥の気配を感じ取ってください。

行事報告

2月24～25日(土～日)福島県いわき海岸周辺
 参加: 12人 天気: 晴

ハジロカイツブリ ミミカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ヒメウ ゴイサギ ダイサギ コサギ キンクロハジロ クロガモ シノリガモ ウミアイサ トビ ハヤブサ シロチドリ ハマシギ セグロカモメ オオセグロカモメ シロカモメ カモメ ウミネコ ウミスズメ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ イソヒヨドリ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (47種) 普通電車利用のためか、あまり知られていない探鳥地のためか、参加申し込みが少なかったが、少人数で楽しい雰囲気での探鳥ができた。荒波の中で浮き沈みするシノリガモやクロガモ、ウミアイサを沢山見ることができた。夜の懇親会も鳥談議に花が咲き、大いに盛り上がった。やはり1泊の探鳥会は楽しい。(中島康夫)

9月29日(日) 夕かの渡り調査
 ボランティア: 30人

浅見健一、浅見徹、榎本秀和、榎本みち子、海老原教子、海老原美夫、岡野強、小原勇、金子博子、神谷純、神谷亨、小荷田行男、小山恵司、佐久間博文、高剌宏、高文子、陶山和良、中島章二、福井恒人、藤野富代、別所幸男、逸見嶮、宮武祥代、宮武幹郎、森本國夫、山崎芳治、吉田時規、吉本富美子、吉安一彦、和田康男

10月27日(日) 行田市 さきたま古墳公園
 参加: 44人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ

ホオジロ カワラヒワ マヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 意外なことがあるさきたま古墳。カラ類混群をじっくり全員が見た後、ススキに羽を休めるマヒワ♀(ここの探鳥会初記録)も全員が見ることができた。オオタカもすみきった大空に白い羽を見せてゆっくと舞ってくれた。カモの数は少なかったけれど、それぞれに満足したことと思う。それにさきたま古墳の地らしく、土器の野焼きの催しなどもあって、おだやかな秋の一日であった。(内藤義雄)

11月10日(日) 熊谷市 大麻生
 参加: 32人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ トビ チョウゲンボウ イソシギ キジバト アカゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 冬鳥も大体ご到着の様子。下見で確認できたノビタキ君は、現われてくれなかった。しかし、明戸堰ではコハクチョウが遠望され、また、カモ類もこの時期で6種も確認できた。この冬は冬鳥の当たり年になるのでは。(和田康男)

11月10日(日) 春日部市 内牧公園
 参加: 32人 天気: 曇

オオタカ キジバト アオゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 小川沿いの林でメジロの群れが盛んに鳴いており、ここでは珍しいアオゲラの鳴き声も聞くが、姿が

見えない。先に進むと、ジョウビタキ、アオジ、ツグミ、シメ、おまけにウソまで出てくれ、その場を離れられない。帰りのバスを遅らせることにした直後、オオタカが上空に出現。刈田でタヒバリ、ヒバ리를じっくり探しながら歩く。内牧では珍しい鳥が出て、皆満足であった。(吉安一彦)

11月17日(日) 長瀬町 長瀬

参加: 51人 天気: 快晴

トビ ノスリ キジバト アオゲラ アカゲラ
コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カヤクグリ ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシブトガラス(27種)紅葉には少し早かったけれど、快晴の中、宝登山を歩きました。早々とノスリ、アカゲラの歓迎を受け、参加者の気分は上々。カヤクグリやルリビタキ(さえずり)も確認できたし、楽しいバードハイキングでした。(小池一男)

11月17日(日) 浦和市 三室地区

参加: 55人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ヒドリガモ オオタカ チョウゲンボウ バン タカブシギ イソシギ タシギ ユリカモメ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(39種)青空にゆっくりとチョウゲンボウ、オオタカが飛んで、全員大拍手。参加者も東京から8名と、見沼たんぼも全国区となったようだ。カモ類は少なかったが、ヒドリガモが久しぶりに出現。小春日和の楽しい探鳥会。(楠見邦博)

11月23日(土、休) 栃木県 奥日光

参加: 48人 天気: 晴

マガモ ホシハジロ トビ イヌワシ アカゲラ
コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ クレンジャク ヒレンジャク カワガラス ミソサザイ エナガ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス(22種)心配した雪もなく好天気の中、赤沼をスタート。戦場ヶ原の中では鳥が少なく

くて心配したが、青木橋の近くでクレンジャク70羽位の群れを全員が見られた。湯川沿いでは、カワガラス、ミソサザイも見られ、皆さん満足の様子だった。鳥の数は少ないがやっぱり日光。

(中島康夫)

11月23日(土、休) 大宮市 染谷見沼自然公園

参加: 39人 天気: 曇後晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ キジ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(40種)加田屋川ではカワセミが排水用の土管にちょこんと止まってくれ、じっくりと観察でき、初参加の方は大喜びだった。シメ・カシラダカを始め冬鳥も出現。セキレイ類は4種を数えた。見沼自然公園の池では、カモ類7種を数え、特にオカヨシガモは開園以来初認と思われる。晩秋のおだやかな陽ざしの中、鳥・人・自然とふれ合いながら無事終了した。

(工藤洋三)

11月24日(日) 狭山市 入間川

参加: 41人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ トビ チョウゲンボウ コジュケイ イカルチドリ イソシギ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ピンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス セッカ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(44種)91年11月に定例化して以来、この探鳥地も6年目に突入。前回まで27回の参加者は延べ680人、出現鳥の記録は79種。いずれもたいした数字ではないが、5年間無事過ごせたことが何より。これからもよろしく。

(長谷部謙二)

支部規約と探鳥会規定は、総会やリーダー研修会などで配布していますが、なかなか全員に配布する機会はありませんでした。これではいけないと、今回は『しらこぼと』を増ページして全文掲載することにしました。文字が小さくなりますが、お許しください。

日本野鳥の会埼玉県支部規約

第1章 総 則

第1条 (名称) この支部は財団法人日本野鳥の会(以下本会と称す)の寄付行為31条に基づき設立され、日本野鳥の会埼玉支部(以下支部と称す)と称する。

第2条 (事務所) 支部は事務所を埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号ブルームローズ岸町107号室に置く。

第3条 (目的) 支部は自然にあるがままの野鳥に接して楽しむ機会を設け、また野鳥に関する科学的な知識及び、その適正な保護思想を普及することにより、県民の間に自然尊重の精神を培い、もって人間性豊かな社会の発展に資することを目的とする。

第4条 (事業) 支部は第3条の目的を達成するために次の事業を行なう。

- 1, 探鳥会その他の催し物の実施
- 2, 野鳥等の調査、研究
- 3, 野鳥を中心とした自然保護に必要と認められる諸活動
- 4, 支部報その他の出版物の刊行及びその頒布
- 5, 会員相互の親睦、品位保持、向上に関する施策
- 6, その他支部の目的を達成するために必要な事業

第2章 会 員

第5条 (構成員) 支部会員は原則として埼玉県内に居住する本会の会員で構成する。

第6条 (会費) 1, 会員は総会において定める会費を納入しなければならない。

2, 会員の資格を失った時、既に納めた会費の返還はしない。

3, 会員の種別と会費、入会金は次の通りとする。

正会員 本会会誌『野鳥』と支部報『しらこぼと』を購読する
会員 年会費7,000円 入会金500円

普通会員 支部報のみを購読する会員 年会費2,500円 入会金500円

支部賛助会員 本会会誌と支部報を購読し、支部を賛助する個人又は団体 年会費1014,000円 入会金500円

家族会員 正会員、普通会員又は支部賛助会員の家族 年会費500円 入会金なし

ジュニア会員 中学生以下、支部報のみ購読 年会費1,000円 入会金なし

名誉会員 正会員、普通会員又は支部賛助会員のうちから役員会で推薦された者

第7条 (入会) 会員になろうとする者は入会申込書、会費及び入会金を添えて本会又は支部に提出しなければならない。

第8条 (退会) 1, 会員が会費を滞納したときは、退会となる。

2, 会員が本会及び支部の名誉を著しく傷つけ又は本会及び支部の目的に反する行為のあるとき、あるいは本会及び支部の存在を害する虞れのあるときは、役員会の決議を経て退会さ

せることができる。

第3章 役 員

第9条 (役員) 支部には次の役員をおく。

支部長 1名

副支部長 3名以下

幹事 若干名

監事 2名

第10条 (役員)の選任) 1, 役員は総会において、正会員、普通会員又は支部賛助会員の中から選任する。

2, 支部長、副支部長及び監事は役員相互による。

第11条 (役員)の職務) 1, 支部長は支部を代表し業務を総理する。

2, 副支部長は支部長を補佐して業務を掌理し、あらかじめ支部長が定める順位により、支部長が事故あるときはその職務を代行する。

3, 幹事は役員会を構成し支部の業務に関し審議決定し、役員相互により会務を分担し事業の遂行をはかる。

4, 監事は、民法第59条の職務を行なう。

第12条 (役員)の任期) 1, 役員は任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

2, 役員は任期終了後も後任者が就任するまでその職務を行なう。

3, 補欠による役員は任期は前任者の残任期間とする。

第13条 (役員)の解任、補欠) 役員が支部の役員として不適当と認められる時は役員会の3分の2以上の議決又は総会においてこれを解任及び補欠することができる。

第14条 (評議員) 本会の評議員として役員の中から1名互選する。

第15条 (顧問) 1, 支部には必要に応じて顧問を置くことができる。

2, 顧問は役員会の承認を経てこれを委嘱する。

3, 顧問は支部の事業について役員会に助言を与えることができる。

第4章 会 議

第16条 (総会) 1, 総会は正会員、普通会員及び支部賛助会員をもって組織し通常総会は毎年1回5月又は6月に開くものとする。

2, 臨時総会は役員会が必要と認めるとき又は正会員、普通会員及び支部賛助会員の3分の1以上から会議の目的を示して請求があったとき、開かなければならない。

3, 総会を招集するには少なくとも開催日の7日前には会議の日時、場所、会議の目的を示して会員に通知しなければならない。

第17条 (総会)の議決) 1, 総会の議事は出席者の過半数で決し、

可否同数の場合は議長の決するところによる。

2. 支部規約の変更は出席者の3分の2以上をもって決する。
3. 支部の存在に関わるほど重大であると判断される事項については、会員全員の意思を十分に反映できる方法を考慮しなければならない。

第18条（総会の議決事項）総会では次の事項を議決する。

1. 規約の変更
2. 役員を選任及び解任
3. 事業計画、事業報告、予算、決算の承認
4. その他支部の運営上特に必要な事項

第19条（役員会の開催、成立）役員会は、支部長又は役員2分の1以上が必要と認めるとき、開催される。

第20条（役員会の議決）役員会は本規約で定められたものの他、会務執行に関する事項その他の事項を議決して処理する。又その議決は第17条の規定を準用する。

第5章 資産及び会計

第21条（資産及び運用）支部の資産は次の通りとし、経費その他に運用する。

1. 設立当初、支部設立準備会から継承されたもの
2. 会費及び寄付金
3. 事業から生ずる収入及びその他の収入

第22条（事業及び会計年度）支部の事業及び会計年度は1年とし、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

第6章 委員会及び部

第23条（委員会及び部）1. 支部は会務運営ならびに第4条の事業遂行の為、必要な委員会及び部を設けることができる。

2. 委員会及び部の設置及び廃止は役員会で決議する。

第7章 分会

第24条（分会）支部は目的推進のために支部会員で構成された分会を役員会の承認により設置または廃止することができる。

第8章 その他

第25条 この規約に定めない事項については、本会の寄付行為の定めるところによる。

附 則

第26条 1. この規約は、本会理事会にて支部設立の承認のあった日（昭和59年4月24日）から施行する。

2. 支部設立初年度の役員は、第10条の規定にかかわらず設立準備会に於て決定された役員とする。

3. 支部設立初年度は、以上の規定にかかわらず、第1回役員会を以て総会にかえる事ができる。

改正：昭和62年6月7日・平成6年6月26日

日本野鳥の会埼玉県支部探鳥会規定

1.（目的）探鳥会は、野鳥と自然と人のふれあいの場を通して、楽しみながら自然に対する理解を深めあう催しです。そして、日本野鳥の会の活動への賛同を得て、より人間性豊かな社会の実現を目的とします。

2.（フィールドマナー）野鳥の生活をおびやかす行為、植物や昆虫などの採集、ゴミの放置など、自然環境を乱す行為は、厳に慎みましょう。

3.（開催）(1)探鳥会を開催する場合は、役員会においてあらかじめ場所、日時、担当リーダーなどを定め、支部報『しらこぼと』に掲載します。

(2)探鳥会は原則として小雨決行とします。雨天等の場合、担当リーダーの判断により中止することもあります。

4.（参加者と参加費）(1)探鳥会には、会員はもちろん、会員でない人も誰でも参加できます。ただし、小学生以下の参加は保護者同伴を原則とします。また、一泊以上の探鳥会及び役員会が指定する探鳥会については、中学生以下は保護者同伴、高校生は親の承諾を必要とします。

(2)参加者は、会員と中学生以下の会員でない人は50円、高校生以上の会員でない人は100円の参加費を納めてください。

(3)探鳥旅行などの場合は、旅費・宿泊費・保険料なども含めた参加費を役員会であらかじめ決定し、『しらこぼと』に掲載します。事前に納めていただく場合もあります。

5.（申し込み、取り消し、中止）(1)探鳥会は原則としてあらかじめ参加申し込みを必要としません。

(2)あらかじめ参加申し込みを必要とする場合は、その旨を支部報『しらこぼと』に掲載しますので、そこに指定する申し込

み方法で申し込んでください。

(3)参加申込み者が定員を超過した場合は、先着順または抽選によって参加者を決定します。

(4)参加申し込み者は、取り消しをした場合、特に定めのない限り、以下の違約金を支部に納めてください。

①出発日の10日前までのキャンセルは、参加費の20%。

②出発日の3日前までは参加費の30%。

③2日前から出発当日までのキャンセル、及び無断不参加は参加費の50%。

(5)参加申し込み者が参加不能となった場合、その人が紹介したかわりの人が参加できます。ただし、指定した申し込み方法と同じ方法で、あらかじめ担当者に必ず連絡してください。この場合は違約金は必要ありません。

(6)あらかじめ参加費を集めた探鳥会・探鳥旅行が、支部の責任によらない原因によって中止されたとき、それまでに支出した保険料・通信費などの経費及び返金手数料を差し引いた金額を返還します。

(7)あらかじめ参加費を集めた探鳥会・探鳥旅行が、支部の責任による原因によって中止されたとき、参加費全額を返還します。

6.（安全対策）万一の事故の場合は参加者各自に責任を負っていただくことを前提に、団体行動に無理なく同行できるかどうか、各自の責任で参加を決め、安全には十分に注意して行動してください。

施行：昭和60年9月1日

改正：平成3年8月18日・平成7年9月17日

連 絡 帳

●支部事務局からのお願い

当支部の事務局は、ボランティア事務局員が、仕事の合間に担当しています。有給の常勤事務職員はおりません。会員の名簿管理などは、本部のオフィスコンピューターにすべて任せてあり、毎月支部報を発送する宛て名ラベルも、本部のコンピューターで打ち出しています。

ですから、転居や複数支部入会など会員登録に関係することは、直接本部事務局の会員センターの方にご連絡ください。支部事務局を通じて間接的に連絡するよりも、間違いも少なくなりますから。

150 渋谷区南平台町15-8 ウッディ南平台ビル2階 (財)日本野鳥の会会員センター

直通電話 03-3463-8842

本部事務局FAX 03-3463-8844

(なお、ジュニア会員だけは、支部独自の制度ですので、本部コンピューターには登録されていません。ジュニア会員だけは、支部事務局の方にご連絡ください。)

●その他の本部直通電話

ついでですから、その他の本部の各部署の電話番号もご紹介します。

編集局	03-3463-8919
総務部	03-3463-8998
社会企画部	03-3463-8998
保護調査センター	03-3463-8997
ネイチャースクール	03-3463-8997
サンクチュアリセンター	03-3463-8860
研究センター	03-3463-8862
国際センター	03-3463-8861
企画事業センター	03-5701-8400
バードショップ	03-5701-6400

(企画事業センターとバードショップの所在地は、152 目黒区自由が丘2-3-12 自由が丘サンクスネイチャーセンター内、です。)

●会員割引のいろいろ

『野鳥』誌を御覧になっていない普通会员の皆さんにもお知らせしましょう。

①本会販売物：一部の販売物が割引に。

②サンクスネイチャースクール講座：本会主催のカービングやバードウォッチング入門

などの講座が、割引で受講できます。

③協定旅館：全国に約70軒。宿泊料1割引。周辺探鳥地の情報も。

④フェリー：運賃が3割引(時期により1割引)。電話予約の時に会員割引を申込み、乗船当日に会員証を提示して乗船券購入。東京～釧路(近海郵船0120-15-4946)。東京～苫小牧、大洗～苫小牧(ブルーハイウェイライン03-3578-1127)。

⑤マツダレンタリース：利用料3割引(一部1割引)。0120-00-5656に会員割引申込みとともに予約、当日現地店舗で会員証を提示。(利用料の1割相当額が、マツダレンタリースから本会に寄付もあります。)

問い合わせ先：①②は企画事業センター。③④⑤は会員センターへ。

●2月の事務局 土曜と日曜の予定

1日(土)普及部会議。

8日(土)編集会議、研究部会議。

15日(土)『しらこぼと』2月号校正作業。

16日(日)役員会議(仮日程)。

22日(土)『しらこぼと』袋づめの会。

●会員数は

1月6日現在2,723人。

活 動 報 告

12月7日(土)普及部会議。

12月14日(土)編集会議、研究部会議。

12月15日(日)役員会議(司会:倉林宗太郎、講師派遣依頼の取扱・探鳥会予定の変更・事務局テーブルの買い替え・その他)。

12月21日(土)1月号校正作業(喜多峻次、海老原美夫)。

編 集 後 記

久しぶりに浦和市三室地区の定例探鳥会に参加した。ちょうどこの探鳥会150回目の記念日で、うれしいことが3つ。100回目も参加されて今年喜寿の渡辺喜八郎さんが元気に参加されたこと。浦和市立郷土博物館職員の中尾加代子さんと88歳のお母様お手製のミニ手鞠70個以上をお祝いいただいたこと。3つ目は、ここでは初めてのウソが出現したことです。(山部)

『しらこぼと』1997年2月号(第154号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)